正誤表

「令和６年度（第１２回）群馬県地域保健研究発表会」

抄録 36 ページの掲載内容に誤りがありました。

【誤】

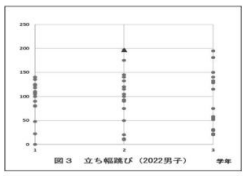

図３　立ち幅跳び（2022男子）

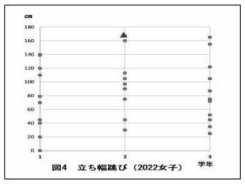

図4　立ち幅跳び（2022女子）

２）個人の変容

2021 年～2023 年までの 3 年間について、6 名の男子児童の 50m 走の個人の記録の変容を図 5

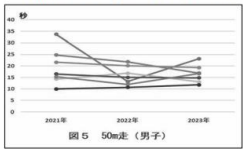

図５　50m走（男子）

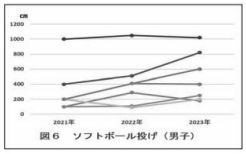

図６　ソフトボール投げ（男子）

に示した。また、ソフトボール投げの記録の変容を図 6 に示した。

年齢を重ねるごとに記録が伸びている児童もいれば、記録が下がっている児童、上がったり下がったりしている児童もあり、個人差があることがわかった。

３）運動習慣調査

中学部 6 名について、運動習慣等に関する調査の結果を表 2 に示す。

表2　運動習慣等調査

運動やスポーツをすることは好きか	すき	やや好き	やや嫌い	嫌い	計
	10	2	0	0	12
運動やスポーツは大切かもわか	大切	やや大切	あまり大切ではない	大切ではない	計
	10	2	0	0	12
中学を卒業後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思うか	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	計
	10	2	0	0	12
朝食は毎日食べるか	毎日	食べない日もある	食べない日が多い	食べない	計
	12	0	0	0	12
毎日どのくらい寝ているか	10時間以上	9～10時間未満	8～9時間未満	7～8時間未満	計
	1	2	8	1	12
平日、テレビやDVD、スマホ、ゲーム機、パソコンなどの画面を何時間見ているか	全く見ない	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	計
	0	6	4	2	12

すべての生徒が、運動やスポーツを「好き」「やや好き」と回答しており、運動やスポーツへの愛好度は高い。朝食は毎日食べ、睡眠については、7 時間未満の生徒はいない。スクリーンタイムについては、3 時間を超える生徒はいない。概ね適切な生活習慣であるといえる。

まとめ

今回調査した知的障がいのある児童生徒は、全国平均より体力・運動能力が高くないこと、年齢を重ねるごとに体力や運動能力が向上するとはいえないことが明らかとなった。しかしながら、運動やスポーツに対する愛好度は高く、今後さらなる運動機会の創出や継続的な確保が求められる。

文献

早川公康，小林寛道（2014），知的障害児の発育期における運動能力について，人間生活文化研究 No. 24

スポーツ庁（2023），令和 4 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

【正】

[ppb]、黒質は 131.8 [ppb]、 白質は-26.0 [ppb]であった*4。コア施設の 1.5T 装置と伊勢崎市民病院の 3T 装置の QSM について、部位ごとの相関分析の結果を図 3 に示す*5。大脳基底核の 4 部位をまとめた相関分析の結果を、コア施設（GCH）-伊勢崎 1.5T、伊勢崎 1.5T-3T、GCH-伊勢崎 3T について図 4 に示す*5。三種類の装置で撮像した被検者 26 人について相関分析を行った結果、

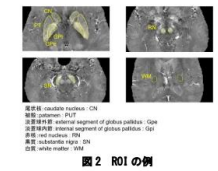

図２　ROI の例

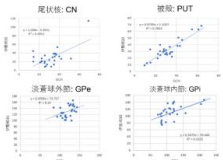

図３ 1.5T と 3T の部位ごとの相関分析の結果

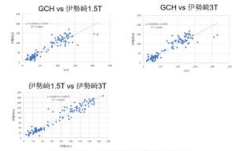

図４ 装置間の相関分析結果

全部位の QSM 値の相関は、すべての組み合わせで相関係数が 0.88 以上で強い相関があった。また、Bland-Altman 分析にて、すべての施設間の QSM 値の差の平均値は、3.8 [ppb]以下で標準誤差は、1.9 [ppb]以下であった。

*1 コア施設の令和 6 年 2 月 10 日時点の実績。
*2 コア施設：79 例、群大：60 例（30×2）、伊勢崎：58 例（29×2）：桐生：20 例の合計数.
*3 コア施設で取得した 37 例の解析結果。
*4 桐生厚生総合病院で取得した 14 例の解析結果。
*5 伊勢崎市民病院とコア施設で取得した 14 例の解析結果。

考察

1.5TMRI 装置 3 台と 3TMRI 装置 3 台、計 6 台の装置で QSM を取得した。大脳基底核を含む 6 部位の QSM 値は、3 T の先行研究と矛盾しなかった[1-3]。また、装置間の QSM 値の相関は静磁場強度によらず 0.88 以上と高かった。

まとめ

静磁場強度 1.5 T と 3 T を含む複数施設間で取得したヒト脳 QSM は、相関が高く誤差が小さいことから、再現性に優れ互いに比較できる可能性が示唆された。

<u>文献</u>

[1] Gong N, Wong C, Hui ES et al: Hemisphere, gender and age-related effects on iron deposition in deep gray matter revealed by quantitative susceptibility mapping, NMR Biomed **28**: 1267-1274, 2015

[2] Acosta-Cabronero J, Williams GB, Cardenas-Blanco A et al: In vivo MRI mapping of brain iron deposition across the adult lifespan, J of Neuroscience **36**: 364-374, 2016

[3] Hinoda T, Fushimi Y, Okada T et al: Quantitative Susceptibility Mapping at 3 T and 1.5 T: Evaluation of Consistency and Reproducibility, Investigative Radiology **50**: 522-530, 2015